

事業所名

フリー・ウィル・インフィニティー

支援プログラム (様式)

作成日

7年

2月

20日

法人 (事業所) 理念		子どもの人権や主体性を尊重し、最善の利益を図るた10年先の未来を見据えた支援に取り組みます。											
支援方針		子どもたち一人ひとりの得意に注目し、その子の持つ可能性を最大限にするための個別化支援、合理的支援を積極的に取り組んでいきます。											
営業時間		平日	10	時	0	分から	19	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		祝日、長期休み											
		9											
		0											
		17											
		30											
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。時間や空間がお子さんにわかりやすいように構造化等により生活環境を整える。(支援例) 活動場所の仕切りなど環境の調整、視覚支援(スケジュールや手順の掲示)、入退室時の持ち物の片づけや準備・忘れ物確認											
	運動・感覚	児童ひとりよりの身体の状態に合わせて、活動時間中に適切な姿勢保持や正しい等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。お子さんの運動機能や感覚の感じ方(振感・触感)に合わせて、課題を設定します。さまざまな感覚(視覚、聴覚、触覚、固有覚、前庭覚など)を取り入れた遊び、感覚の感じ方(振感・触感)への配慮、好ましい姿勢や道具の扱い方等の絵カードや具体的な声かけ、力や視力の視覚化など											
	認知・行動	視覚・聴覚の発達状況や認知の特性を踏まえ、視覚・聴覚の両方から伝達するよう努め、それらも踏まえて児童が自ら入っている情報を認知し理解できるように支援。行動や活動の順序により、児童が視覚・聴覚・触覚などを適切に活用できるように伝達し、認知機能の発達を促す。空間や時間的な概念の形成を図る。視覚支援も活用したりすることで、発達を促したり行動の方向づけ、自分の得意なことや好きなことなどを知らせ、自分理解を促すことなどを促す。視覚支援がスケジュールや活動の順序がわかることで確認・行動することを行い、行動などの事前予告											
	言語 コミュニケーション	集団活動等の機会を通じ、コミュニケーション(言語・非言語のやり取り)により、相手の意図を理解するよう支援。自分の思いや要求の相手への伝え方など場面や相手の状況に応じた適切なやりとりを促す。											
	人間関係 社会性	活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わり方の機会および環境を提供することで人間関係形成の促進を図る。ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しさや手順を徐々に理解できるように支援する。他者の気持ちや意図を理解したり、適切な行動を促したりするなど、社会に適応するために必要なソーシャルスキルの獲得を支援する。気持ちのコントロール、行動を認めて自尊心を高めるなど											
家族支援	ご家族からお子さんのご家庭での様子や心配などについてお話を伺い、ご家庭でも実践できるような環境づくりや関わり方の工夫を一緒に考えます。					移行支援			発達支援も活用したり本人・保護者等との関係調整を支援。同じ目的のない支援も継続できるように併行してお子さんの発達やこれまでの支援経過、支援方針等に関する情報を共有し、他者の教育の場方支援を行います				
地域支援・地域連携	ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。 保育、教育、福祉、医療等の関係機関と連携し、地域の発達支援体制の充実や地域の発達支援に関する課題の改善・解決に努めます。発達に支援が必要なお子さんに関する知識について普及啓発します。					職員の質の向上			外部研修の受講や事業所内研修を実施し、職員の専門的な知識やスキル、支援の質の向上を図ります。				
主な行事等		卒業のお祝い(3月)、外食活動(8月)、外出活動(長時休み期間)											